

北神けいろうの国政報告：9月号

いつも大変お世話になっています。

この度、内閣総理大臣に野田佳彦さんが就任しました。国難の時に、総理がまた変わることは決して胸を張れることではありません。しかしながら、菅総理が辞めるということになり、その後、政治空白が続いていましたことは事実です。新しい内閣が発足することで、ようやく政治が動き出すことは、どん底の中の進展ではあります。

野田総理については、私が議員になってから、それなりに親しくご指導をいただけてきました。西京極の私の選挙事務所や桂駅西口でも応援に来ていただいたことがあります。奇を衒(てら)うことなく、王道を歩む内閣になると期待しています。今は、東日本の復旧復興と原発事故の対策、ひいては、京都も含めた日本の地域経済の景気対策を強力に実行しなければなりません。こうした中で、上滑りする、実をとみなわない、派手な発信は、不要です。もっとも大事なことは、党がまとまって、野党と「挙国一致」の体制を実現することです。そのためには、地味だけれども、自分の仲間を大らかに束ねつつ、誠意をもって野党に協力をお願いすることができる、野田総理しかいないと思います。

私事ですが、この度、5日の閣議決定により、野田内閣の一員として、経済産業大臣政務官を拝命しました。微力ですが、枝野経済産業大臣、松下・牧野両副大臣の下で、中小企業対策をはじめとする経済政策、資源エネルギー政策、知的財産権に関する戦略等に関して、奮闘して参ります。

特に喫緊の課題としては、一つは、電力供給の問題です。この夏は猛暑にならず、何とか乗り越えましたが、今年の冬と来年の夏は、極めて厳しい状況にあります。私たちの生活や企業活動を考えると、早急に、政府としての対策を練らなければなりません。

もう一つは、原子力に対する信頼が揺らいでいる中で、今後、石炭、天然ガス、太陽光、風力などのエネルギー源をどのように組み合わせたら、電気料金の値上げを抑えつつ、安全で環境に配慮したエネルギー戦略を構築できるか、であります。

三つ目としては、何と言っても、経済対策です。大震災からの立ち上がりは早かったものの、電力事情が不透明な中、円高、世界経済の冷え込みが重なり、これから厳しい局面に入ります。法人税の減税(特に中小企業への軽減)、中小企業の資金繰り対策、環境や福祉分野などの規制改革等、強力に推進しなければなりません。

全力で頑張っ参りますので、地元の皆様のご指導、ご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。